

市立甲府病院中央検査室 監査報告書

平成 25 年 5 月 29 日

山梨大学医学部附属病院検査部

小池 亨

奥山純子



1. 生理検査部門についてのご報告

- ・ 検査システムが構築されており、検査の流れは適切に実施されているようです。
- ・ 検査マニュアルにも、特に指摘する点はありませんでした。
ただし、『中央検査室 災害時 マニュアル』表紙の作成日が 2112.05 なので修正してください。本文では 2012.05 になっています。
- ・ 患者誤認対策は、医療事故防止マニュアルに従って、検査項目や予約時間の確認、ご本人にフルネームを名乗ってもらうなどの注意が図られ、実行されているようです。
- ・ 心電図検査について、前回値をチェックするために、MUSE システムから前回値を表示する点では、一手間かかる印象でしたが、現行のシステムでの運用では、チェック機構には問題がないと考えます。
- ・ 呼吸機能検査について、フィルターを滅菌後再使用しているようですが、感染対策の観点から、基本的にはディスポーザブルとし、患者毎に交換が望ましいと思われます。
- ・ エコー検査では、ゼリーを拭くために使い捨てのウェットタオルが用いられ、清潔面・患者サービス面に気遣いが感じられました。
- ・ 検査室は生理整頓がなされ、患者動線に電源コードや障害物などが無いよう配慮されています。検査用ベッドの周りのスペースは確保され、ベッドへの移乗にも注意が払われているようです。可能であれば、電動ベッドを用いて、移動の際に上下できれば、落下や転倒防止に役立ちますので、安全対策の観点からお勧めします。

担当 山梨大学医学部附属病院 検査部 生理機能検査室

奥山 純子



2. 中央検査室医療事故防止マニュアルについて

- ① 医療事故防止マニュアルの中の誤字がみられます。
制度→精度
- ② 全ての文書類に共通なことです。文書の作成者・作成日および承認者・承認日を確認できる様式が望まれます。
- ③ 精度管理（内部・外部）の実施にあたっては、記録の保持と、不具合が生じた際の対応策を構築することが望まれます。
- ④ 機器の保守にあたっては、同様に記録が必要であり、実施者と実施日を必ず記入する様式を用いてください。
- ⑤ 緊急時の体制、緊急連絡網およびパニック値の設定・対処法は整備されていました。
- ⑥ パニック値の報告時には、必ず記録を残すようにし、所定の様式を設定することを勧めます。
- ⑦ 検体・細菌検査オーダ運用フローは、メーカー提示そのままの書式であるためか、少しわかりにくく感じました。共通認識しやすいような独自のマニュアルがあっても良いと思いました。
- ⑧ 全体を通して、手順書等は整備されていました。
課題は、それを如何に職員に周知徹底させるかの方法と記録の補助のルール作りが必要と感じました。

作成：山梨大学医学部附属病院検査部

小池 亨

